

桜のつぼみも膨らみ始め、暖かな日差しに春の訪れを感じる季節となりました。
本日は、私達卒業生のためにこのような厳粛な式典を催して頂き、ありがとうございます。
ご臨席を賜りました御来賓の皆様、先生方、御父兄の皆様に卒業生一同、心より御礼申し上げます。

一年前、助産師への強い志と希望を胸に、別科助産専攻の二期生として、この学び舎の門を潜りました。年齢も経験も異なる14名が、これから始まる1年間に、期待と不安で胸を膨らませ、1つの教室に目を輝かせて着座したことを昨日のこのように覚えています。講義開始時より次々と課せられる課題に戸惑いましたが、「あなたたちはチームで戦うのですよ。」と、濱寄先生より御教授頂き、先生方の御指導の下、仲間と助け合い、一つ一つ乗り越えることができました。分娩介助実習に向けて、連日夜遅くまで仲間と時には激しく意見を交わし、そして励ましあいながら真剣に技術の習得に努めました。ここで高めたチーム力と信頼関係は、これからの私達を支える糧となると信じて止みませんでした。そして始まった分娩介助実習は、予想以上につらく厳しいものでした。時にはくじけそうになり、未熟さに涙したことも幾度もありました。しかし、常に先生方が私達に寄り添い、時には厳しく指導して頂き、共に悩み、良き相談者として支えてくださいました。そのお陰で、明日への自分を奮い立たせ、実習に向かうことができました。14名で支えあいながら、全力で学んだ日々は私達にやり遂げる自信をもたらしてくれたと感じております。また、私達学生を受け入れてくださり、丁寧に御指導くださった実習先の指導者の皆様、妊産婦さんとその家族がいたからこそと感謝の気持ちでいっぱいです。

これからはそれぞれの地で助産師として活躍していくこととなります。この1年の学びと仲間と共に乗り越えた大きな自信を胸に、新たな一歩を踏み出してまいります。そして、探求心を持ち続け、それぞれの目指す助産師像に向かい、邁進していく所存です。私自身は臨床経験を持って入学し、ここで助産についての学びを深めることができたと同時に、看護の初心に立ち戻ることができました。これから助産師として、新たな気持ちで母子に寄り添った支援ができるよう精進してまいります。

本日この晴れやかな日を迎えることができましたのは教職員の皆様、ご臨席いただきました御来賓の皆様のお陰と存じます。別科助産専攻卒業生一同、改めて御礼を申し上げます。諸先生方、今後ともどうぞ私達14名を温かく見守り続けてください。そして、家族の支えなくして、ここまで来ることができませんでした。言葉では言い尽くせないほど感謝でいっぱいです。

最後になりましたが、宮崎県立看護大学の益々のご発展を願い、御指導くださいました先生方の御健康と御活躍並びに在校生の皆様の一層の御健闘を心からお祈りいたしまして、答辞とさせていただきます。

平成31年3月15日

別科助産専攻修了生代表 寺田 陽子